

みんなの健康ラジオ

『冬のウイルス性胃腸炎』

(2020年10月15日放送)

横浜市小児科医会

川端こどもクリニック

川端 清

冬のウイルス性胃腸炎

- 冬のウイルス性胃腸炎は、ロタウイルスやノロウイルスなどによる、うつる病気です。
- 患者の便や嘔吐物には大量にウイルスがいて、これに触れた手を介して口から体に入って感染します。ノロウイルスでは、ウイルスに汚染された貝から食中毒を起こすこともあります。
- 流行時期は、ノロウイルスは12月から3月ごろ、ロタウイルスは1月から春先がピークとなります。

胃腸炎の症状

- 感染から半日から2日で突然の発熱や嘔吐、続いて色の薄い水のような下痢便になります。
- 発熱や嘔吐は1~2日で治まり、下痢は1週間ぐらいで良くなります。
- 嘔吐が続き、脱水が強い時は、点滴や入院が必要となります。

胃腸炎の診断と治療

- 診断のために、ウイルス抗原検査をおこなうこともありますが、抗ウイルス剤はなく、治療は対症療法のみなので、検査をせずに症状で診断して治療する場合も多いです。
- 治療のため、病院では解熱剤や整腸剤などを処方しますが、家庭での水分補給がなにより大切です。吐き気が落ち着いてきたら、水分を少しずつ飲ませます。経口補水液があればなお良いでしょう。

家庭で注意すべき症状

- 吐き気が続き、元気がなくなったり、顔色が悪くなったり、唇が乾いておしっこが少ないときは、脱水の進行が疑われますので、早めに病院を受診してください。

感染の予防

- 感染予防のためには、こまめな手洗いが重要です。
- 便・吐物の処理や、汚れた床などの消毒には、次亜塩素酸ナトリウム溶液が有効です。
- アルコールにも、ある程度消毒効果がありますので、次亜塩素酸ナトリウムが使いにくい手指や金属の消毒に使用できます。